

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-180753

(P2013-180753A)

(43) 公開日 平成25年9月12日(2013.9.12)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 47/20 (2006.01)	B 6 5 D 47/20 A	3 E 0 8 4
G 0 1 F 19/00 (2006.01)	G 0 1 F 19/00 M	
G 0 1 F 11/14 (2006.01)	G 0 1 F 11/14	

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2012-43360 (P2012-43360)	(71) 出願人	000006909
(22) 出願日	平成24年2月29日 (2012. 2. 29)		株式会社吉野工業所
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号
		(74) 代理人	100064908
			弁理士 志賀 正武
		(74) 代理人	100094400
			弁理士 鈴木 三義
		(74) 代理人	100106909
			弁理士 棚井 澄雄
		(74) 代理人	100140718
			弁理士 仁内 宏紀
		(72) 発明者	星野 真弥
			東京都江東区大島 3 丁目 2 番 6 号 株式会
			社吉野工業所内
		F ターム (参考)	3E084 AA02 AB01 BA02 CA02 CB02
			KB01 LA13 LB02 LD01 LE09

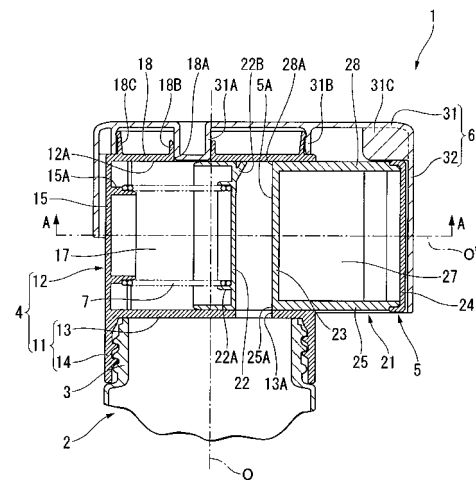
(54) 【発明の名称】 計量キャップ

(57) 【要約】

【課題】 不意に加えられた外力によって内容物が排出されることを防止できる計量キャップを提供する。

【解決手段】 容器本体 2 の口部 3 に装着されると共に、前後方向に沿って延在するスライド孔部 1 2 A、スライド孔部 1 2 A と容器本体 2 内とに連通するストック孔部 1 3 A、及びストック孔部 1 3 A を通過した内容物が取り出される取出孔部 1 8 A が形成されたキャップ本体 4 と、スライド孔部 1 2 A 内において前後方向にスライド移動自在に嵌合されると共に、ストック孔部 1 3 A を通過した容器本体 2 内の内容物がストックされるストック室 5 A を有するスライド部材 5 と、キャップ本体 4 に着脱自在に装着され、取出孔部 1 8 A を開閉する蓋部材 6 と、を備え、スライド部材 5 が、スライド孔部 1 2 A 内において、ストック位置と取出位置との間をスライド移動自在に嵌合され、蓋部材 6 が、スライド部材 5 のうちキャップ本体 4 から後方に露出した部分を覆う。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内容物が収容される容器本体の口部に装着されると共に、容器軸に交差するスライド軸に沿って延在するスライド孔部、前記スライド孔部と前記容器本体内部に連通するストック孔部、及び前記ストック孔部を通過した前記容器本体内部の内容物が取り出される取出孔部が形成されたキャップ本体と、

前記スライド孔部内において前記スライド軸方向にスライド移動自在に嵌合されると共に、前記ストック孔部を通過した前記容器本体内部の内容物がストックされるストック室を有するスライド部材と、

前記キャップ本体に着脱自在に装着され、前記取出孔部を開閉する蓋部材と、
を備え、

前記スライド部材が、前記スライド孔部内において、前記ストック室と前記ストック孔部とが連通されかつ前記ストック室と前記取出孔部との連通が遮断されるストック位置と、前記ストック室と前記取出孔部とが連通されかつ前記ストック室と前記ストック孔部との連通が遮断される取出位置と、の間をスライド移動自在に嵌合された計量キャップであって、

前記蓋部材が、前記スライド部材のうち前記キャップ本体から前記スライド軸方向に露出した部分を覆うことを特徴とする計量キャップ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、計量キャップに関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、例えば容器本体内部に収容されている内容物を計量して取り出すための計量キャップが知られている。このような計量キャップとして、内容物が収容される容器本体の口部に装着されると共に、容器軸に交差するスライド軸に沿って延在するスライド孔部、スライド孔部と容器本体内部に連通するストック孔部、及びストック孔部を通過した容器本体内部の内容物が取り出される取出孔部が形成されたキャップ本体と、スライド孔部内においてスライド軸方向にスライド移動自在に嵌合されると共に、ストック孔部を通過した容器本体内部の内容物がストックされるストック室を有するスライド部材と、キャップ本体に着脱自在に装着され、取出孔部を開閉する蓋部材と、を備えるものが提案されている（例えば、特許文献 1 参照）。

【0003】

この計量キャップでは、スライド部材が、スライド孔部内において、ストック室とストック孔部とが連通されかつストック室と取出孔部との連通が遮断されるストック位置と、ストック室と取出孔部とが連通されかつストック室とストック孔部との連通が遮断される取出位置と、の間をスライド移動自在に嵌合されている。そして、スライド部材がストック位置にある状態で計量キャップを装着した容器本体を倒立姿勢にすることによって、ストック孔部を通してストック室内に所定量の内容物が収容され、その後、スライド部材を取出位置までスライド移動させることによって、取出孔部を通してストック室内の内容物が外部に排出される。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2011-251690 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上記従来の計量キャップでは、スライド部材に対して不意に加えられた

10

20

30

40

50

外力によって、内容物が排出されることに対して改善の余地があった。

【0006】

本発明は、前述の課題に鑑みてなされたもので、不意に加えられた外力によって内容物が排出されることを防止できる計量キャップを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、上記のような課題を解決するために以下のような手段を採用した。すなわち、本発明の計量キャップは、内容物が収容される容器本体の口部に装着されると共に、容器軸に交差するスライド軸に沿って延在するスライド孔部、前記スライド孔部と前記容器本体内に連通するストック孔部、及び前記ストック孔部を通過した前記容器本体内の内容物が取り出される取出孔部が形成されたキャップ本体と、前記スライド孔部内において前記スライド軸方向にスライド移動自在に嵌合されると共に、前記ストック孔部を通過した前記容器本体内の内容物がストックされるストック室を有するスライド部材と、前記キャップ本体に着脱自在に装着され、前記取出孔部を開閉する蓋部材と、を備え、前記スライド部材が、前記スライド孔部内において、前記ストック室と前記ストック孔部とが連通されかつ前記ストック室と前記取出孔部との連通が遮断されるストック位置と、前記ストック室と前記取出孔部とが連通されかつ前記ストック室と前記ストック孔部との連通が遮断される取出位置と、の間をスライド移動自在に嵌合された計量キャップであって、前記蓋部材が、前記スライド部材のうち前記キャップ本体から前記スライド軸方向に露出した部分を覆うことを特徴とする。

【0008】

この発明では、蓋部材がスライド部材のうちキャップ本体からスライド軸方向に露出した部分を覆うので、スライド部材に対して不意の外力が加えられず、この外力によって内容物が排出されることを防止できる。

すなわち、例えば流通段階や待機状態などにおいて計量キャップに外力が不意に加わっても、この外力がスライド部材に対して加えられないので、スライド部材がスライド軸に沿ってキャップ本体の内側に向けてスライド移動されない。これにより、内容物が排出されない。

一方、内容物を取り出す場合には、蓋部材をキャップ本体から取り外すと、スライド部材に対して外力を加えることができるようになり、スライド部材をスライド軸に沿ってキャップ本体の内側に向けてスライド移動させることができる。これにより、ストック孔部を通してストック室内に内容物を収容することや、取出孔部を通してストック室内に収容されている内容物を排出させることができる。

したがって、計量キャップに不意に加えられた外力によって内容物が排出されることを防止できる。

【発明の効果】

【0009】

この発明にかかる計量キャップによれば、スライド部材に対して外力を加えることができず、スライド部材をスライド軸に沿ってキャップ本体の内側に向けてスライド移動できないので、計量キャップに不意に外力が加えられても、この外力によって内容物が排出されることを防止できる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】本発明の一実施形態における計量キャップを示す軸方向断面図である。

【図2】蓋部材を取り除いた状態における図1のA-A矢視断面図である。

【図3】図1の蓋部材を示す軸方向断面図である。

【図4】図3のB-B矢視部分断面図である。

【図5】図1の蓋部材を示す下面図である。

【図6】図1の計量キャップの使用方を説明する説明図である。

【図7】同じく、図1の計量キャップの使用方を説明する説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

以下、本発明における計量キャップの一実施形態を、図面に基づいて説明する。なお、以下の説明に用いる各図面では、各部材を認識可能な大きさとするために縮尺を適宜変更している。

【0012】

本実施形態における計量キャップ1は、図1に示すように、内容物が収容される有底円筒状の容器本体2の円筒状の口部3に装着される筒状のキャップ本体4と、キャップ本体4内にスライド移動自在に配設されたスライド部材5と、キャップ本体4に着脱自在に装着される有頂筒状の蓋部材6と、スライド部材5をその移動方向に付勢する付勢バネ7と、を備える。

10

【0013】

ここで、容器本体2及び口部3は、それぞれの中心軸線が共通軸上に位置した状態で配設されている。以下、この共通軸を容器軸Oと称し、図1において容器軸Oに沿って蓋部材6側を上方、その反対側を下方とする。また、容器軸Oに直交する方向を径方向と称し、容器軸O回りに周回する方向を周方向と称する。さらに、本実施形態では、容器軸Oに直交するスライド部材5の移動方向（図1における左右方向）をスライド軸O'と称し、この図1においてスライド軸O'に沿ってスライド部材5がキャップ本体4の内側から突出する方向（図1における右側）を後方、その反対側（図1における左側）を前方とする。また、容器軸O及びスライド軸O'に直交する方向を左右方向と称する。

20

【0014】

キャップ本体4は、図1及び図2に示すように、容器本体2の口部3に着脱自在に螺着される有頂円筒状の装着筒部11と、装着筒部11上に配設された角筒部12と、を有する。

装着筒部11は、平面視で円板状の天壁部13と、天壁部13の外周縁から下方に向けて突設された円筒状の周壁部14と、を有する。装着筒部11は、口部3に螺着されているが、着脱自在でなくともよく、螺着以外の他の方法により装着されてもよい。

天壁部13には、容器本体2内と角筒部12内とに連通するストック孔部13Aが形成されている。ストック孔部13Aは、平面視で左右方向に長い矩形状をなしており、天壁部13において容器軸Oよりも後方に形成されている。

30

【0015】

角筒部12は、スライド軸O'に沿って延在し、後方に向けて開口すると共に前端が閉塞された矩形筒状をなしている。角筒部12は、天壁部13の前端縁から上方に向けて立設された前壁部15と、天壁部13から上方に向けて立設された一对の側壁部16、17と、前壁部15及び一对の側壁部16、17それぞれの上端縁を接続する上壁部18と、を有する。なお、角筒部12の下壁部は、装着筒部11の天壁部13によって形成されている。これら天壁部13、前壁部15、一对の側壁部16、17及び上壁部18によって、スライド軸O'に沿って延在すると共に後方に向けて開口するスライド孔部12Aを画成する。

【0016】

前壁部15は、天壁部13の外周縁に沿う湾曲板状をなしている。また、前壁部15には、付勢バネ7の前端部が外装される円筒状の第1軸筒部15Aが後方に向けて突設されている。

40

側壁部16、17の前後方向中央部には、図2に示すように、径方向内側に向けて第1係合突部16A、17Aが各別に突設されている。また、側壁部16、17の前後方向中央部には、左右方向から見て係合突部16A、17Aの前端及び上下両端を囲むコ字状をなすと共にスライド孔部12A内に連通する切欠部16B、17Bが各別に形成されている。これにより、係合突部16A、17Aは、径方向で弾性変位可能となる。

【0017】

上壁部18には、図1及び図2に示すように、ストック孔部13Aを通過した容器本体

50

2 内の内容物が取り出される取出孔部 18 A が形成されている。取出孔部 18 A は、平面視で左右方向に長い矩形状をなしており、平面視でストック孔部 13 A よりも前方に形成されている。また、上壁部 18 の取出孔部 18 A の開口縁部には、図 1 に示すように、取出孔部 18 A の全周にわたって矩形筒状の取出筒部 18 B が上方に向けて立設されている。さらに、上壁部 18 の外周縁部には、平面視で前後方向に長い長円筒状の取付筒部 18 C が全周にわたって上方に向けて立設されている。

【0018】

スライド部材 5 は、図 1 及び図 2 に示すように、角筒部 12 のスライド孔部 12 A 内で前後方向にスライド移動自在に配設されており、スライド軸 O' に沿って延在する矩形筒状のスライド本体部 21 と、スライド本体部 21 とでストック孔部 13 A を通過した容器本体 2 内の内容物がストックされるストック室 5 A を区画する一对の仕切板部 22、23 と、スライド本体部 21 の後端開口部を閉塞する閉塞板部 24 と、を有する。

10

スライド本体部 21 は、平面視で矩形板状の底板部 25 と、底板部 25 の左右両端部から上方に向けて各別に立設された一对の側板部 26、27 と、一对の側板部 26、27 それぞれの上端縁を接続する天板部 28 と、を有する。

【0019】

底板部 25 は、キャップ本体 4 の天壁部 13 に摺接する。また、底板部 25 の前端部には、スライド本体部 21 の外部とスライド本体部 21 内のストック室 5 A とを連通する下面開口部 25 A が形成されている。下面開口部 25 A は、平面視で左右方向に長い矩形状をなしており、平面視でストック孔部 13 A と重なっている。そのため、ストック室 5 A は、ストック孔部 13 A を介して容器本体 2 内と連通している。このようにスライド部材 5 の下面開口部 25 A を介してストック室 5 A がストック孔部 13 A と連通する位置をストック位置と称する。

20

【0020】

側板部 26、27 は、図 2 に示すように、キャップ本体 4 の側壁部 16、17 に各別に摺接する。側板部 26 には、側壁部 16 の第 1 係合突部 16 A と係合する第 2 係合突部 26 A と、前後方向に延在する一对の摺接突部 26 B と、が突設されている。第 2 係合突部 26 A は、側板部 26 の前端部に配設されており、上下方向に延在する。なお、第 2 係合突部 26 A の上下両端は、側板部 26 の上下両縁から離間している。一对の摺接突部 26 B は、第 2 係合突部 26 A の上下両端から後方に向けて各別に延設されている。同様に、側板部 27 には、側壁部 17 の第 1 係合突部 17 A と係合する第 2 係合突部 27 A と、前後方向に延在する一对の摺接突部 27 B と、が突設されている。

30

このように、第 2 係合突部 26 A、27 A が第 1 係合突部 16 A、17 A と係合することにより、スライド部材 5 がストック位置よりも後方に移動することが規制される。

【0021】

天板部 28 は、図 1 及び図 2 に示すように、キャップ本体 4 の上壁部 18 に摺接しており、天板部 28 の前端部には、底板部 25 と同様に、スライド本体部 21 の外部とスライド本体部 21 内のストック室 5 A とを連通する上面開口部 28 A が形成されている。上面開口部 28 A は、下面開口部 25 A と同様に、平面視で左右方向に長い矩形状をなしており、角筒部 12 の上壁部 18 によって閉塞されている。そのため、ストック室 5 A は、ストック位置において上面開口部 28 A を介して取出孔部 18 A と連通しておらず、ストック室 5 A 内に収容される内容物は、ストック位置において外部に排出されない。一方、スライド部材 5 を前方にスライド移動させると、上面開口部 28 A は、平面視で取出孔部 18 A と重なり、ストック室 5 A は、取出孔部 18 A を介して外部と連通する。このように、スライド部材 5 の上面開口部 28 A を介してストック室 5 A が取出孔部 18 A と連通する位置を取出位置と称する。

40

【0022】

仕切板部 22、23 は、矩形板状をなしており、ストック室 5 A の前端及び後端それぞれを区画している。また、前側の仕切板部 22 には、付勢バネ 7 の後端部が内装される第 2 軸筒部 22 A が前方に向けて突設されている。さらに仕切板部 22 の上端部には、後方

50

かつ上方に向けて突条部 2 2 B が突設されている。突条部 2 2 B は、スライド部材 5 がスライド移動しているときに、ストック室 5 A が下面開口部 2 5 A を介してストック孔部 1 3 A と連通している状態で上面開口部 2 8 A を介して取出孔部 1 8 A と連通しないようにしている。なお、ストック室 5 A がストック孔部 1 3 A 及び取出孔部 1 8 A と同時に連通することを防止できれば、突条部 2 2 B を設けなくてもよい。

閉塞板部 2 4 は、前壁部 1 5 と同様に湾曲板状をなしており、スライド本体部 2 1 の後端部に嵌め込まれている。

【0023】

蓋部材 6 は、図 1 及び図 3 から図 5 に示すように、平面視で前後方向に長い有頂長円筒状をなしており、スライド部材 5 のうちキャップ本体 4 から後方に露出した部分（以下、露出部分と称する）を覆う。蓋部材 6 は、キャップ本体 4 及びスライド部材 5 のうち上記露出部分を上方から覆い、取出孔部 1 8 A を開閉する頂壁部 3 1 と、頂壁部 3 1 から下方に延設されてキャップ本体 4 及びスライド部材 5 のうち上記露出部分を径方向外側から覆う外筒部 3 2 と、を有する。

【0024】

頂壁部 3 1 は、平面視で前後方向に長い長円板状をなしており、キャップ本体 4 の上壁部 1 8 及びスライド部材 5 のうち上記露出部分を上方から覆っている。また、頂壁部 3 1 の左右両端部は、外筒部 3 2 よりも径方向外側に突出している。

頂壁部 3 1 には、平面視で左右方向に長い有底矩形筒状をなす栓部 3 1 A が下方に向けて突設されている。この栓部 3 1 A は、平面視で上壁部 1 8 の取出孔部 1 8 A と重なる位置に設けられており、取出筒部 1 8 B の内側に嵌め込まれている。

また、頂壁部 3 1 には、平面視で前後方向に長い長円筒状の嵌合筒部 3 1 B が下方に向けて立設されている。この嵌合筒部 3 1 B は、栓部 3 1 A よりも径方向外側に配設されると共に左右両壁部が外筒部 3 2 に連設されており、取付筒部 1 8 C の外側に嵌め込まれている。

さらに、頂壁部 3 1 の後端部には、複数（本実施形態では 3 つ）のリブ部 3 1 C が下方に向けて突設されている。リブ部 3 1 C は、周方向に間隔をあけて配設されており、リブ部 3 1 C の下端縁は、スライド部材 5 に当接または近接し、リブ部 3 1 C の後端縁は、外筒部 3 2 に連設されている。

【0025】

外筒部 3 2 は、平面視で前後方向に長い長円筒状をなしており、キャップ本体 4 の角筒部 1 2 の一部とスライド部材 5 のうち上記露出部分とを径方向外側から覆っている。図 3 及び図 4 に示すように、外筒部 3 2 の左右両壁部の下端縁は、後方に向かうにしたがって漸次下方に向かうように傾斜している。

【0026】

付勢バネ 7 は、角筒部 1 2 の前壁部 1 5 とスライド本体部 2 1 の仕切板部 2 2 との間に配設されており、スライド部材 5 を後方に付勢している。なお、コイルバネで形成された付勢バネ 7 に替えて、断面矩形状の棒体を前後方向で互い違いに湾曲されることによって平面視で蛇腹状に形成されたバネなど、スライド部材 5 を後方に向けて付勢できれば、他の付勢手段を用いてもよい。

【0027】

次に、以上のような構成の計量キャップ 1 の使用方法について説明する。

まず、図 1 に示すように、蓋部材 6 がキャップ本体 4 に装着された状態では、キャップ本体 4 のうち上記露出部分を覆っているため、計量キャップ 1 に不意に外力が加わっても、スライド部材 5 を前方に押し込むことができない。そのため、蓋部材 6 をキャップ本体 4 に装着した状態では、容器本体 2 内の内容物が排出されない。

ここで、頂壁部 3 1 の栓部 3 1 A 及び嵌合筒部 3 1 B がキャップ本体 4 の取出筒部 1 8 B 及び取付筒部 1 8 C と各別に嵌合しており、蓋部材 6 がキャップ本体 4 に対して強固に装着されているため、蓋部材 6 の外筒部 3 2 に不意の外力が加えられても、蓋部材 6 がこの外力によって外れにくい。また、頂壁部 3 1 の後端部にリブ部 3 1 C を配設しており、

外筒部 3 2 の後端部が前方に向けて変形しにくくなっている。これにより、不意の外力がスライド部材 5 に加わりにくくなり、スライド部材 5 がこの外力によって前方に押し込まれることが抑制される。

【0028】

容器本体 2 内の内容物を排出する際には、図 6 に示すように、最初に蓋部材 6 をキャップ本体 4 から取り外す。そして、容器本体 2 を把持した状態で計量キャップ 1 が装着された容器本体 2 を上下反転させ、計量キャップ 1 が下方を向く倒立姿勢とする。これにより、容器本体 2 内に収容された内容物がストック孔部 1 3 A を通って容器本体 2 から流出し、下面開口部 2 5 A を通ってストック室 5 A 内に導かれる。これにより、容器本体 2 内の内容物がストック室 5 A 内にストックされる。

10

【0029】

ストック室 5 A に所定量の内容物をストックしたら、スライド部材 5 を角筒部 1 2 内に向けて前方に押し込む。スライド部材 5 を押し込むと、スライド部材 5 は、前方にスライド移動する。スライド部材 5 が取出位置に向けてスライド移動すると、スライド部材 5 の下面開口部 2 5 A がキャップ本体 4 のストック孔部 1 3 A に対して前後方向でずらされ、スライド部材 5 の上面開口部 2 8 A 及び下面開口部 2 5 A が角筒部 1 2 によって閉塞される。これにより、ストック室 5 A とスライド部材 5 の外部との連通が遮断され、ストック室 5 A 内から内容物が外部に開放されること及びストック室 5 A 内に内容物がストックされることを防止し、ストック室 5 A に所定量の内容物が収容される。

【0030】

ここで、突条部 2 2 B が設けられているので、ストック室 5 A が下面開口部 2 5 A を介してストック孔部 1 3 A と連通している状態で上面開口部 2 8 A を介して取出孔部 1 8 A と連通することが防止され、下面開口部 2 5 A が完全に閉塞される前に上面開口部 2 8 A が開放されてストック室 5 A 内に収容されている内容物が取出孔部 1 8 A を介して排出されることを防止している。これにより、ストック室 5 A に所定量の内容物を収容させることができ、内容物の計量が正確になる。

20

【0031】

スライド部材 5 を取出位置に向けてさらに押し込んでスライド部材 5 を取出位置に位置付けると、図 7 に示すように、キャップ本体 4 の取出孔部 1 8 A とスライド部材 5 の上面開口部 2 8 A とが前後方向で位置合わせされ、取出孔部 1 8 A と上面開口部 2 8 A とが平面視で重なる。これにより、ストック室 5 A が上面開口部 2 8 A 及び取出孔部 1 8 A を介してキャップ本体 4 の外部と連通する。そのため、ストック室 5 A 内の内容物は、上面開口部 2 8 A 及び取出孔部 1 8 A を介して取出筒部 1 8 B 内を通り、キャップ本体 4 の外部に排出される。

30

【0032】

ストック室 5 A 内の内容物を排出した後、スライド部材 5 の押圧を解除する。スライド部材 5 は、付勢バネ 7 の復元変形によって取出位置からストック位置に向けて後方にスライド移動される。

側壁部 1 6、1 7 の第 1 係合突部 1 6 A、1 7 A と側板部 2 6、2 7 の第 2 係合突部 2 6 A、2 7 A とが係合することにより、付勢バネ 7 によって後方に付勢されるスライド部材 5 がストック位置を越えて後方にスライド移動されることが防止される。

40

以上のようにして、容器本体 2 内に収容されている内容物を計量して取り出す。

【0033】

以上のような構成の計量キャップ 1 によれば、蓋部材 6 がスライド部材 5 のうちキャップ本体 4 から後方に露出した部分を覆っており、蓋部材 6 を装着しているときにはスライド部材 5 に対して外力が加えられないので、計量キャップ 1 への不意の外力によって容器本体 2 内の内容物が排出されることを防止できる。

【0034】

なお、本発明は上記実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲において種々の変更を加えることができる。

50

例えば、蓋部材は、スライド部材のうちキャップ本体から露出する部分とキャップ本体の一部とを覆っているが、少なくともスライド部材のうち上記露出部分を覆っていればよい。

スライド軸は、容器軸に交差していれば、直交していなくてもよい。

スライド部材は、スライド本体部の後端部に閉塞板部が嵌め込まれているが、閉塞板部を設けなくてもよい。また、スライド部材は、矩形筒状をなしているが、ストック室が画成されていれば、中実の柱状など、他の形状であってもよい。

スライド部材を後方へ向けて付勢する付勢バネなどの付勢部材が設けられているが、付勢部材を設けなくてもよい。

スライド部材は、ストック孔部を取出孔部よりも後方に形成すると共に付勢バネによってストック位置に向けて後方に付勢されているが、ストック孔部を取出孔部よりも前方に形成すると共に付勢バネによって取出位置に向けて後方に付勢されてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0035】

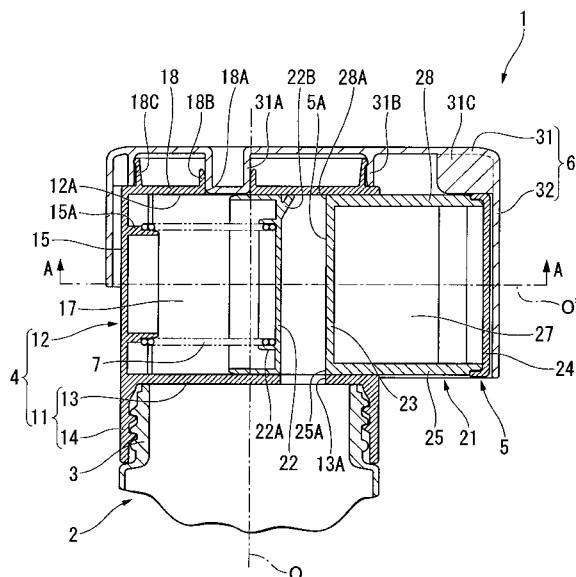
この発明によれば、不意に加えられた外力によって内容物が排出されることを防止できる計量キャップに関して、産業上の利用可能性が認められる。

【符号の説明】

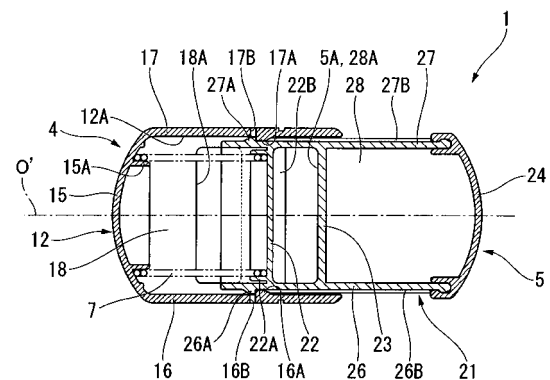
【0036】

1 計量キャップ、2 容器本体、3 口部、4 キャップ本体、5 スライド部材、5A ストック室、6 蓋部材、12A スライド孔部、13A ストック孔部、18A 取出孔部、O 容器軸、O' スライド軸

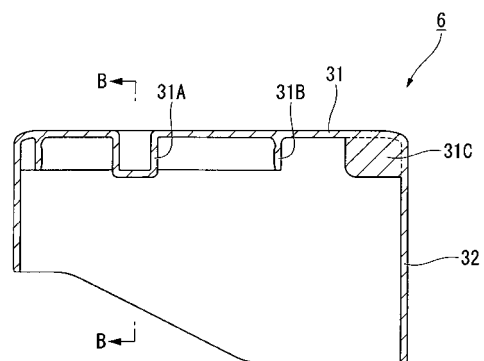
【図1】



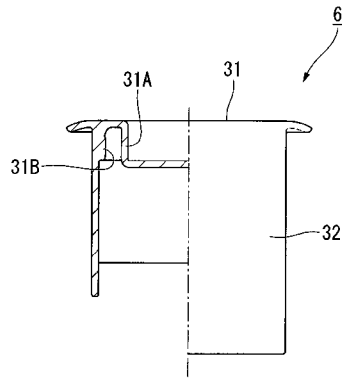
【図2】



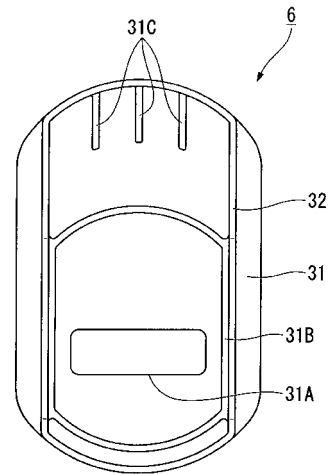
【図3】



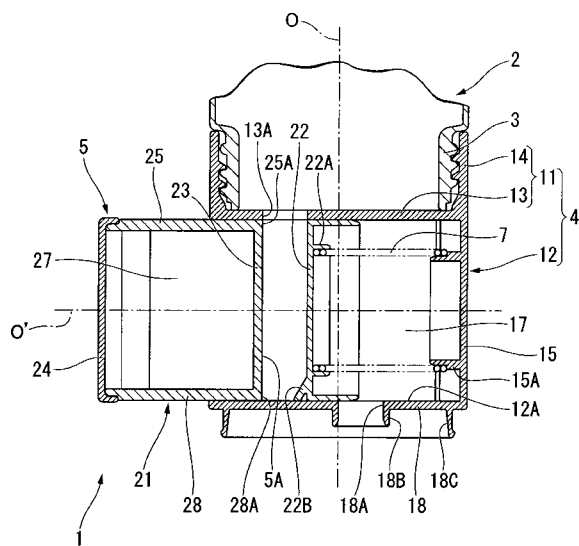
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

